

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490800026		
法人名	株式会社 ウインズ		
事業所名	ウインズの森 角田グループホーム	ユニット名	ユニット①
所在地	宮城県角田市角田字緑町10-1		
自己評価作成日	令和 4 年 2 月 10 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4 年 3 月 15 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「安全」「安心」「寄り添いケア」を柱に、一律ケアを行うのではなく個別ケアを実践しています。ウインズの森角田グループホームでは、一人一人の入居者様ご自分の気持ちを尊重できる環境作りを目指し、ご自分のペースで生活が送れるように支援して行く事に力を入れております。また、入居者様の笑顔が絶えない毎日が続く様に、日々の活動や行事等の充実にも力を入れております。入居されてからも、ご家族様との絆が失われないように、職員が間に入り交流を進めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは角田警察署の北側、商業施設が並ぶ繁華街から外れた住宅地の一角にあり、公園と果樹園、畑に隣接した自然に恵まれた環境にある。コの字型2ユニットの間はウッドデッキで繋がり、茶飲みや日向ぼっこ等を楽しんでいる。ホーム理念の「尊重・共生・笑顔」の具現化のために、職員は入居者と信頼関係を築き、「個別ケア」を大切に、楽しく感じてもらえるイベント等を工夫し、笑顔を引き出す介護に努めている。コロナ禍ではあるが対策を十分に、季節を感じるドライブや入居者の要望を受け入れ、買い物等の外出機会を多くしている。目標達成計画である水害時の避難訓練を実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名ウインズの森角田角田グループホーム)「ユニット名 ユニット①」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念の他に、開所からホーム独自の理念を掲示している。「尊重・共生・笑顔」職員より人生の先輩の利用者様を尊重し、職場ではあるがほとんどの時間を利用者様と一緒に過ごす場になるので共生。いつも利用者様と一緒に職員も笑顔になれるような環境作りに努められるように考えた。	開設時に作成したホーム理念を継続している。事務所に掲示し、職員は出勤時に確認している。共に笑顔で過ごせるよう一人ひとりに寄り添ったケアに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	災害時における相互援助に関する協定をしている。ホーム前の公園の奉仕作業にも参加していたが、コロナ禍で参加できず。	町内会及び地域の親和会に加入している。非常災害時に避難協力や住民の受け入れを協定し、協力し合う体制が出来ている。散歩で近くの商店で買い物をしたり、ウッドデッキから犬を散歩する方と挨拶を交わす。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内の研修で認知症について勉強している。運営推進会議の場にも、利用者様に参加して頂いており、実際の声掛けや介助の様子は見ておらえると思う。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・区長・民生委員・親和会・利用者様の方々に2か月に1度開催している。資料で活動報告は写真で説明。コロナ禍の為、書面にて実施している。	偶数月に6回、書面で開催している。手渡しと郵送で会議録を配布し、メンバーからは意見をもらっている。行事に対する感想や水害時の避難場所の設定等の意見が寄せられ、双方向の会議となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	空き情報を伝えながら、毎月の施設便りもお渡しし、活動を知って頂くようにしている。	市担当課とは介護保険の手続きの他、空き室情報の伝達やワクチン接種の状況報告等で連携している。リモートで地域包括主催の「感染症対策」「リスクマネジメント」「アセスメント」研修に参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修にて実施、職員間で認識を持つようにしている。「身体拘束廃止委員会」では3か月にごとに、センサーを使用している検討を行う。施錠は夜間のみになっている。	転落防止柵の必要性や転倒リスクを個別に検討し、センサーや2点柵を使用している方がいる。「ここに来ることを家の者に言っていない」と帰宅願望のある方がおり、一緒に家まで行った。現在は納得して落ちついてる。職員への研修は年間計画に入っている。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて実施、職員間で認識を持つようにしている。原因となる職員のストレスを軽減できるよう、ミーティングや面談を行っている。	身体拘束・高齢者虐待について、講師は職員の持ち回りで内部研修を行っている。管理者は面談を大切にし、職員のメンタルケアに努めている。職員間のコミュニケーションを大切にストレスが軽減出来るように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は管理者他1名の2人体制で行う。契約書類は全て読み上げ、疑問に思う所はその都度説明しながら行う。また、改正時は説明し理解を頂いた上で、書面を残すようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。面会ができない時期でもあり、ホーム便りや電話で相談や要望を聞いている。	毎月、本人の写真付きのホーム便りで現況を報告している。介護用品の内容についての質問や電話は昼休み時間か夕方という意見があり、詳しく説明したり、電話をかける時間を考慮することを職員間で共有している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を定期的に行う事で、意見や要望にできるだけ応じている。またスタッフミーティング時には、意見交換を行う。	年2回の個人面談で、勤務時間の希望や悩み等を聞いている。子育て中の職員の勤務時間に柔軟に対応している。レクリエーション活動以外に、居室に籠る方のケアに関する支援など個別活動の意見が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談の中で、就業に関する事もお互いに確認し、悩んだまま無理をする事が無いように話を聞くように心掛けている。資格取得へのサポート体制がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加した場合、直近のミーティングで報告をしている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	リモートの研修会などの参加を通じて、他施設と交流や情報交換ができる機会を作っている。	ケアマネ部会のリモート研修に参加し、アセスメントの要領や空き部屋情報、営業方法など話し合った。近くの薬剤師とは入居者の状態確認について、今後も連携していくことを確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	人居初期は、不安の中で過ごしていると思う。少しでもここに居ても良いんだと思っていただけるよう話を良く聴き、その中から困っている所を探りたいと思う。職員も不安はあると思うが、焦らずご本人に合わせたケアを考えていきたい。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の情報はもちろんだが、ご家族様の考えや想い、要望をできるだけ多く聞き取れるような関係を作っていきたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番何が困っているのか、できている事と一緒に考え、ご本人の負担にならないような関り方の方法を、ご家族様からの情報を頂けるようにしたい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事を生かし、利用者様に任せるばかりではなく、職員も一緒に行う事で信頼関係が築けるようにしたい。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の便りの中で、生活の様子や認知症の状態も、ご家族には理解して頂きたいので、良い事ばかりではなく、ありのままをお伝えしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会を規制しているが、所用で来所頂くご家族様とガラス越しの面会で対応している。手紙や電話、ライン電話などを利用し、繋がりを維持できるよう努めている。また、訪問理容師との付き合いも長く、定期的に話ができる事が楽しみにもなっている。	2カ月に1回来る訪問理容師との付き合いは長く、馴染みになっている。孫とテレビ電話で会話する方、20年来の友人で定期的に電話(以前は面会)をする方、点繋ぎや編み物、読書等趣味の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同士で、ゆっくりと話ができるように環境を整えたりする。一人になりがちな方や耳が聴こえにくく、人の輪に入りにくい方には、好みのレクを通じて他者と関りが持てるよう、職員が仲介している。状態を見極め、無理をしない範囲で関りを持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、当事業所の評価は続くと思えます。ご紹介頂いたり、ご利用して頂ける「選ばれる事業所」を目指している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定時ケア、一律ケアではなく、利用者様の状態に合わせたケアに努めている。また、買い物や気分転換の外出、好きな食べ物、飲み物の想いを汲み取った関りを多く取るように努めている。	晩酌を医師から止められ、本人は納得してコーヒーにした。甘い物が食べたい方は近くの商店へまんじゅうを買い行く。思いの表出が苦手な人は、表情から気になることを引き出し、傾聴を重視した対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの情報や、ご本人からの話の中で、その方を理解できるよう、集団生活の中でも続けられるように、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別ケアを通して、利用者様が穏やかに過ごせるようにケアにあたっている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態の把握に努め、現状を維持できるように努めている。申し送りもしっかり行い、利用者様が混乱しないようケアの統一を図っている。状態の変化はご家族に報告、ケアの内容も都度説明し、意向と意見を頂く。	3ヵ月毎にモニタリングをしている。殆ど寝ている方を起こす前にバイタルを測定し状態を見て離床させることをプランに盛り込んだ。家族の意向は、現状維持が多くバイタルや体調管理を入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には、ご本人が話した言葉、行動をありのまま残している。関り方も記録し、その後の対応に繋げている。また、水分摂取量、排便状態も記録して、申し送り、改善に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の思いや状態を把握し、ご家族に報告、情報を交換する中からニーズに答えられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や近隣のスーパーの買い物に出かけている。市内の道の駅は、利用者様の中で好評。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員が提携医の訪問診療を月2回受けている。体調の変化時は職員が対応し早急に受診する。ご家族様には、その都度報告する。また、少し心配な状態でも電話で相談に応じて頂け、その指示に従い受診や様子観察を行う。訪問歯科も利用している。	各ユニットが月2回の訪問診療を受診している。状態や医師の助言等は記録し、職員で共有している。専門科の受診は主治医の紹介で家族付き添いであるが、職員が付き添うこともある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師配置なし。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携している病院側が、入院時も利用者様が安心できるようにと訪問診療に交代で担当されているとの事。また、入院中はご家族様に対応して頂くが、ホームでは、病院側に状態の確認をしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の状態とは等説明し、理解を得た上で署名、捺印を頂いている。また、ホームができる事できない事も含め説明し、退居後の事も協力する考えである。	重度化対応・終末期ケア対応指針を成文化し、常時医療処置や管理が必要になった場合は、退居となることを家族に説明し同意を得ている。主治医が終末期の判断をし、ホームは入院や医療面が充実した他施設への入居等を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が一番不安に思っている一つだと思う。定期的に訓練を行う事と、研修を実施して、冷静な行動ができるようにしている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回避難訓練を実施している。夜間を想定し2人でも安全に誘導できる様に訓練している。繰り返し訓練する事で体で覚えて頂きたいと思う。災害時援助協定を地域と交わしている。	日中・夜間・早朝を想定した火災や水害時の避難訓練を毎月実施している。毎回出火場所や避難経路を変えるなど、実践に役立つ訓練を心掛けている。水害時の避難訓練の結果は市防災安全課に報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様は、さん付けでお名前をお呼びしている。状況によって、声の大きさやトーンに配慮している。	入室の際はノックをし声掛けをして入室している。着替えやトイレの介助時は、他から見えないよう配慮している。トイレ誘導や失禁時は耳元でトイレと言わず「ちょっと〇〇へ行きよう」と声掛けしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どんな小さな事でも職員の押し付けにならないように心掛けて声かけをしている。出来るだけ答えやすいように、言葉を選びご本人が決定できるようにしている。また、耳が聴こえにくい方には筆談でのやり取りを行う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の想いを伝えて頂ける方には、できるだけ想いに沿うようにしている。状態に応じて、一日のメリハリが付くように関りを作っており、個別に対応したり、全体での活動にする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の温度にあった洋服と一緒に選ぶ事はある。女性の方には、行事の際お化粧を施しており、喜ばれる。約2か月に一度、または希望する時に訪問理容を依頼する。その方に似合った髪型にして頂ける。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食業者を利用しているが、一緒にできる所や片付けを行っている。季節に応じた食事作りは行事で計画を立てて、鍋・煮物・秋刀魚・漬物作りは毎年の恒例になっている。誕生会のケーキや、おやつ作りも行い、食べたい物の希望に沿って提供している。	ご飯とみそ汁は職員が調理、副食は配食業者で行事食や弁当、おやつなどの要望にも対応している。夏の流しそうめん、秋の芋煮、大根の漬物作りは恒例となっている。おはぎやパフェ等を一緒に作り楽しく食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせて食事量を調整し、食べやすいように刻みにし提供している。食事の時間も起床の時間に合わせたり、食事の間隔も配慮する。嚥下状態に合わせて、とろみをつける事もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要な方はもちろんだが、自立している方にも声掛けや見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方には、声掛けを行う。記録に残し排泄のリズムを知る。できるだけ、トイレに座るよう促している。便秘薬の調整もしている。自立の方でも、排泄状態は把握に努め、職員間で共有している。	全員トイレで排泄する。入居時オムツだった方を2人で介助していたが食事前に排泄するリズムをつくり、リハパンになった。夜間は睡眠を重視している。ベッド上で覚醒を確認し、ポータブルトイレを使用する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分の補給で、便秘を予防している。また、腹部のマッサージ等で意識付けできればと思い実行している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	定期的に入浴ができるように予定をたてている。楽しみながら入れるよう入浴剤は数種準備している。また、拒否が多い方には、職員が時間を合わせて気持ち良く入って頂くようにしている。	週2回の入浴を基本にしている。お気に入りの入浴剤やシャンプーを使っている。入居者は歌を歌ったり、おしゃべりしたり入浴を楽しんでいる。脱衣所はガスストーブで温め、浴室との温度差解消を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれお好きなように過ごして頂いている。車椅子の方や、高齢の方は時間を決めて体を休めるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のセット、チェック、服薬する職員が重ならないようにして、飲み忘れや誤薬が無いように努めている。服薬時も名前、日付、飲み込みまでを確認している。薬局とも情報の共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の出来る所を、お手伝いして頂く事で、達成感が少しでも満たされる様に行っている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、密にならないよう予防に努めながら、利用者様の気分転換も含め、ドライブや買い物に出かけている。天気の良い日は、施設周辺の散歩も行っている。	諏訪神社への初詣、船岡城址の紫陽花、相馬港の海、角田の道の駅には度々ドライブで出掛け、菓子や梅干し、漬物等を買ってくる。入居者の要望を受け入れ、散歩を兼ねて近くの商店での買い物も楽しみの一つである。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様にホームで預かり、管理させて頂く旨了解を得ている。毎月の支出入は報告し、確認後は受領印を頂いている。また、一緒に買い物に行った場合は、ご本人に選んでもらい、支払いを行って頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と手紙のやり取りを続けている方がいる。電話やライン電話の対応をしている方もいる。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一日の多くをホールで過ごす方が多い。季節感を出す飾り付けは、利用者様と一緒に手作りをしている。施設で飼っている猫も、穏やかに過ごしており、自由に歩き回っている。	ホールにはテーブルや椅子の他ソファがあり、テレビを見ながら寛げる。壁には入居者が作った雛祭りの貼り絵が飾られ季節を感じさせる。ホールでは、カラオケやテレビ体操などを楽しみ、その足元を猫がどこともなく歩き回り癒しを与えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキにはベンチもあり、気の合う方同士でゆっくり話をする事もある。デッキに面した公園の様子を見る事も出来、散歩をする近所の方と挨拶を交わす事もある。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で使っていた馴染みの物を持ち込んで頂く様に伝えている。壁には、ご家族様の写真を貼り、いつでも見えるようにしている。それを見ながら家族の話をゆっくり聞かせてもらえる事もある。	ベッドやクローゼット、エアコンが設えてある。使い慣れたタンスや座椅子、位牌や家族写真、自作の塗り絵、貼り絵等を飾り思い思いの部屋になっている。その人の状態変化や習慣に合わせたベッドの位置にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の動線を考慮し、邪魔にならないように物の置く場所に気を付けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490800026		
法人名	株式会社 ウインズ		
事業所名	ウインズの森 角田グループホーム	ユニット名	ユニット②
所在地	宮城県角田市角田字緑町10-1		
自己評価作成日	令和 4 年 2 月 10 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4 年 3 月 15 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「安全」「安心」「寄り添いケア」を柱に、一律ケアを行うのではなく個別ケアを実践しています。ウインズの森角田グループホームでは、一人一人の入居者様ご自分の気持ちを尊重できる環境作りを目指し、ご自分のペースで生活が送れるように支援して行く事に力を入れております。また、入居者様の笑顔が絶えない毎日が続く様に、日々の活動や行事等の充実にも力を入れております。入居されてからも、ご家族様との絆が失われないように、職員が間に入り交流を進めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは角田警察署の北側、商業施設が並ぶ繁華街から外れた住宅地の一角にあり、公園と果樹園、畑に隣接した自然に恵まれた環境にある。コの字型2ユニットの間はウッドデッキで繋がり、茶飲みや日向ぼっこ等を楽しんでいる。ホーム理念の「尊重・共生・笑顔」の具現化のために、職員は入居者と信頼関係を築き、「個別ケア」を大切に、楽しく感じてもらえるイベント等を工夫し、笑顔を引き出す介護に努めている。コロナ禍ではあるが対策を十分に、季節を感じるドライブや入居者の要望を受け入れ、買い物等の外出機会を多くしている。目標達成計画である水害時の避難訓練を実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員2/3くらいが 3. 職員1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名ウインズの森角田角田グループホーム)「ユニット名 ユニット②」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念の他に、開所からホーム独自の理念を掲示している。「尊重・共生・笑顔」職員より人生の先輩の利用者様を尊重し、職場ではあるがほとんどの時間を利用者様と一緒に過ごす場になるので共生。いつも利用者様と一緒に職員も笑顔になれるような環境作りに努められるように考えた。	開設時に作成したホーム理念を継続している。事務所に掲示し、職員は出勤時に確認している。共に笑顔で過ごせるよう一人ひとりに寄り添ったケアに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	災害時における相互援助に関する協定をしている。ホーム前の公園の奉仕作業にも参加していたが、コロナ禍で参加できず。	町内会及び地域の親和会に加入している。非常災害時に避難協力や住民の受け入れを協定し、協力し合う体制が出来ている。散歩で近くの商店で買い物をしたり、ウッドデッキから犬を散歩する方と挨拶を交わす。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内の研修で認知症について勉強している。運営推進会議の場にも、利用者様に参加して頂いており、実際の声掛けや介助の様子は見ておらえると思う。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・区長・民生委員・親和会・利用者様の方々に2か月に1度開催している。資料で活動報告は写真で説明。コロナ禍の為、書面にて実施している。	偶数月に6回、書面で開催している。手渡しと郵送で会議録を配布し、メンバーからは意見をもらっている。行事に対する感想や水害時の避難場所の設定等の意見が寄せられ、双方向の会議となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	空き情報を伝えながら、毎月の施設便りもお渡しし、活動を知って頂くようにしている。	市担当課とは介護保険の手続きの他、空き室情報の伝達やワクチン接種の状況報告等で連携している。リモートで地域包括主催の「感染症対策」「リスクマネジメント」「アセスメント」研修に参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修にて実施、職員間で認識を持つようにしている。「身体拘束廃止委員会」では3か月にごとに、センサーを使用している検討を行う。施錠は夜間のみになっている。	転落防止柵の必要性や転倒リスクを個別に検討し、センサーや2点柵を使用している方がいる。「ここに来ることを家の者に言っていない」と帰宅願望のある方がおり、一緒に家まで行った。現在は納得して落ちついてる。職員への研修は年間計画に入っている。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて実施、職員間で認識を持つようにしている。原因となる職員のストレスを軽減できるよう、ミーティングや面談を行っている。	身体拘束・高齢者虐待について、講師は職員の持ち回りで内部研修を行っている。管理者は面談を大切にし、職員のメンタルケアに努めている。職員間のコミュニケーションを大切にストレスが軽減出来るように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は管理者他1名の2人体制で行う。契約書類は全て読み上げ、疑問に思う所はその都度説明しながら行う。また、改正時は説明し理解を頂いた上で、書面を残すようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。面会ができない時期でもあり、ホーム便りや電話で相談や要望を聞いている。	毎月、本人の写真付きのホーム便りで現況を報告している。介護用品の内容についての質問や電話は昼休み時間か夕方という意見があり、詳しく説明したり、電話をかける時間を考慮することを職員間で共有している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を定期的に行う事で、意見や要望にできるだけ応じている。またスタッフミーティング時には、意見交換を行う。	年2回の個人面談で、勤務時間の希望や悩み等を聞いている。子育て中の職員の勤務時間に柔軟に対応している。レクリエーション活動以外に、居室に籠る方のケアに関する支援など個別活動の意見が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談の中で、就業に関する事もお互いに確認し、悩んだまま無理をする事が無いように話を聞くように心掛けている。資格取得へのサポート体制がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加した場合、直近のミーティングで報告をしている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	リモートの研修会などの参加を通じて、施設と交流や情報交換ができる機会を作っている。	ケアマネ部会のリモート研修に参加し、アセスメントの要領や空き部屋情報、営業方法など話し合った。近くの薬剤師とは入居者の状態確認について、今後も連携していくことを確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	人居初期は、不安の中で過ごしていると思う。少しでもここに居ても良いんだと思っていただけるよう話を良く聴き、その中から困っている所を探りたいと思う。職員も不安はあると思うが、焦らずご本人に合わせたケアを考えていきたい。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の情報はもちろんだが、ご家族様の考えや想い、要望をできるだけ多く聞き取れるような関係を作っていきたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番何が困っているのか、できている事と一緒に考え、ご本人の負担にならないような関り方の方法を、ご家族様からの情報を頂けるようにしたい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事を生かし、利用者様に任せるばかりではなく、職員も一緒に行う事で信頼関係が築けるようにしたい。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の便りの中で、生活の様子や認知症の状態も、ご家族には理解して頂きたいので、良い事ばかりではなく、ありのままをお伝えしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会を規制しているが、所用で来所頂くご家族様とガラス越しの面会に対応している。手紙や電話、ライン電話などを利用し、繋がりを維持できるよう努めている。また、訪問理容師との付き合いも長く、定期的に話ができる事が楽しみにもなっている。	2カ月に1回来る訪問理容師との付き合いは長く、馴染みになっている。孫とテレビ電話で会話する方、20年来の友人で定期的に電話(以前は面会)をする方、点繋ぎや編み物、読書等趣味の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同士で、ゆっくりと話ができるように環境を整えたりする。一人になりがちな方や耳が聴こえにくく、人の輪に入りにくい方には、好みのレクを通じて他者と関りが持てるよう、職員が仲介している。状態を見極め、無理をしない範囲で関りを持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、当事業所の評価は続くと思えます。ご紹介頂いたり、ご利用して頂ける「選ばれる事業所」を目指している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定時ケア、一律ケアではなく、利用者様の状態に合わせたケアに努めている。また、買い物や気分転換の外出、好きな食べ物、飲み物の想いを汲み取った関りを多く取るように努めている。	晩酌を医師から止められ、本人は納得してコーヒーにした。甘い物が食べたい方は近くの商店へまんじゅうを買い行く。思いの表出が苦手な人は、表情から気になることを引き出し、傾聴を重視した対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの情報や、ご本人からの話の中で、その方を理解できるよう、集団生活の中でも続けられるように、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別ケアを通して、利用者様が穏やかに過ごせるようにケアにあたっている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態の把握に努め、現状を維持できるように努めている。申し送りもしっかり行い、利用者様が混乱しないようケアの統一を図っている。状態の変化はご家族に報告、ケアの内容も都度説明し、意向と意見を頂く。	3ヵ月毎にモニタリングをしている。殆ど寝ている方を起こす前にバイタルを測定し状態を見て離床させることをプランに盛り込んだ。家族の意向は、現状維持が多くバイタルや体調管理を入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には、ご本人が話した言葉、行動をありのまま残している。関り方も記録し、その後の対応に繋げている。また、水分摂取量、排便状態も記録して、申し送り、改善に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の思いや状態を把握し、ご家族に報告、情報を交換する中からニーズに答えられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や近隣のスーパーの買い物に出かけている。市内の道の駅は、利用者様の中で好評。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員が提携医の訪問診療を月2回受けている。体調の変化時は職員が対応し早急に受診する。ご家族様には、その都度報告する。また、少し心配な状態でも電話で相談に応じて頂け、その指示に従い受診や様子観察を行う。訪問歯科も利用している。	各ユニットが月2回の訪問診療を受診している。状態や医師の助言等は記録し、職員で共有している。専門科の受診は主治医の紹介で家族付き添いであるが、職員が付き添うこともある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師配置なし。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携している病院側が、入院時も利用者様が安心できるようにと訪問診療に交代で担当されているとの事。また、入院中はご家族様に対応して頂くが、ホームでは、病院側に状態の確認をしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の状態とは等説明し、理解を得た上で署名、捺印を頂いている。また、ホームができる事できない事も含め説明し、退居後の事も協力する考えである。	重度化対応・終末期ケア対応指針を成文化し、常時医療処置や管理が必要になった場合は、退居となることを家族に説明し同意を得ている。主治医が終末期の判断をし、ホームは入院や医療面が充実した他施設への入居等を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が一番不安に思っている一つだと思う。定期的に訓練を行う事と、研修を実施して、冷静な行動ができるようにしている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回避難訓練を実施している。夜間を想定し2人でも安全に誘導できる様に訓練している。繰り返し訓練する事で体で覚えて頂きたいと思う。災害時援助協定を地域と交わしている。	日中・夜間・早朝を想定した火災や水害時の避難訓練を毎月実施している。毎回出火場所や避難経路を変えるなど、実践に役立つ訓練を心掛けている。水害時の避難訓練の結果は市防災安全課に報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様は、さん付けでお名前をお呼びしている。状況によって、声の大きさやトーンに配慮している。	入室の際はノックをし声掛けをして入室している。着替えやトイレの介助時は、他から見えないよう配慮している。トイレ誘導や失禁時は耳元でトイレと言わず「ちょっと〇〇へ行きよう」と声掛けしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どんな小さな事でも職員の押し付けにならないように心掛けて声かけをしている。出来るだけ答えやすいように、言葉を選びご本人が決定できるようにしている。また、耳が聴こえにくい方には筆談でのやり取りを行う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の想いを伝えて頂ける方には、できるだけ想いに沿うようにしている。状態に応じて、一日のメリハリが付くように関りを作っており、個別に対応したり、全体での活動にする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の温度にあった洋服と一緒に選ぶ事はある。女性の方には、行事の際お化粧を施しており、喜ばれる。約2か月に一度、または希望する時に訪問理容を依頼する。その方に似合った髪型にして頂ける。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食業者を利用しているが、一緒にできる所や片付けを行っている。季節に応じた食事作りは行事で計画を立てて、鍋・煮物・秋刀魚・漬物作りは毎年の恒例になっている。誕生会のケーキや、おやつ作りも行い、食べたい物の希望に沿って提供している。	ご飯とみそ汁は職員が調理、副食は配食業者で行事食や弁当、おやつなどの要望にも対応している。夏の流しそうめん、秋の芋煮、大根の漬物作りは恒例となっている。おはぎやパフェ等を一緒に作り楽しく食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせて食事量を調整し、食べやすいように刻みにし提供している。食事の時間も起床の時間に合わせたり、食事の間隔も配慮する。嚥下状態に合わせて、とろみをつける事もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要な方はもちろんだが、自立している方にも声掛けや見守りを行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方には、声掛けを行う。記録に残し排泄のリズムを知る。できるだけ、トイレに座るよう促している。便秘薬の調整もしている。自立の方でも、排泄状態は把握に努め、職員間で共有している。	全員トイレで排泄する。入居時オムツだった方を2人で介助していたが食事前に排泄するリズムをつくり、リハパンになった。夜間は睡眠を重視している。ベッド上で覚醒を確認し、ポータブルトイレを使用する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分の補給で、便秘を予防している。また、腹部のマッサージ等で意識付けできればと思い実行している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	定期的に入浴ができるように予定をたてている。楽しみながら入れるよう入浴剤は数種準備している。また、拒否が多い方には、職員が時間を合わせて気持ち良く入って頂くようにしている。	週2回の入浴を基本にしている。お気に入りの入浴剤やシャンプーを使っている。入居者は歌を歌ったり、おしゃべりしたり入浴を楽しんでいる。脱衣所はガスストーブで温め、浴室との温度差解消を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれお好きなように過ごして頂いている。車椅子の方や、高齢の方は時間を決めて体を休めるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のセット、チェック、服薬する職員が重ならないようにして、飲み忘れや誤薬が無いように努めている。服薬時も名前、日付、飲み込みまでを確認している。薬局とも情報の共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の出来る所を、お手伝いして頂く事で、達成感が少しでも満たされる様に行っている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、密にならないよう予防に努めながら、利用者様の気分転換も含め、ドライブや買い物に出かけている。天気の良い日は、施設周辺の散歩も行っている。	諏訪神社への初詣、船岡城址の紫陽花、相馬港の海、角田の道の駅には度々ドライブで出掛け、菓子や梅干し、漬物等を買ってくる。入居者の要望を受け入れ、散歩を兼ねて近くの商店での買い物も楽しみの一つである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様にホームで預かり、管理させて頂く旨了解を得ている。毎月の支出入は報告し、確認後は受領印を頂いている。また、一緒に買い物に行った場合は、ご本人に選んでもらい、支払いを行って頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と手紙のやり取りを続けている方がいる。電話やライン電話の対応をしている方もいる。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一日の多くをホールで過ごす方が多い。季節感を出す飾り付けは、利用者様と一緒に手作りをしている。施設で飼っている猫も、穏やかに過ごしており、自由に歩き回っている。	ホールにはテーブルや椅子の他ソファがあり、テレビを見ながら寛げる。壁には入居者が作った雛祭りの貼り絵が飾られ季節を感じさせる。ホールでは、カラオケやテレビ体操などを楽しみ、その足元を猫がどこともなく歩き回り癒しを与えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキにはベンチもあり、気の合う方同士でゆっくり話をする事もある。デッキに面した公園の様子を見る事も出来、散歩をする近所の方と挨拶を交わす事もある。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で使っていた馴染みの物を持ち込んで頂く様に伝えている。壁には、ご家族様の写真を貼り、いつでも見えるようにしている。それを見ながら家族の話をゆっくり聞かせてもらえる事もある。	ベッドやクローゼット、エアコンが設えてある。使い慣れたタンスや座椅子、位牌や家族写真、自作の塗り絵、貼り絵等を飾り思い思いの部屋になっている。その人の状態変化や習慣に合わせたベッドの位置にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の動線を考慮し、邪魔にならないように物の置く場所に気を付けている。		